

基礎から読み解く DPC

正しい理解と実践のために 第2版

松田晋哉 著

＜書評者＞ 齋藤壽一（社会保険中央総合病院長）

松田晋哉氏の著書『基礎から読み解く DPC—正しい理解と実践のために第2版』（医学書院）が刊行された。著者は周知のごとく急性期医療を担う病院のベンチマークから診療報酬までの新しい評価システムである DPC について設計・開発から普及まで、厚生労働省の作業を中心的に主導してきた研究者である。本書は、まさにそのような DPC のすべてを考究しつくした第一人者である著者だからこそ、初めてまとめることができた好著となっている。

DPC はこれを導入している 360 に及ぶ病院の関係者にとっても、その壮大な機能の一部を理解しているにとどまり、容易に全機能を掌握できない広がりや深みをもった制度である。本書では例示された事例の診療報酬算定方式で示されているように、きわめて平易で具体的な記載により「DPC のすべて」が語られている。

全体の構成は明快な図が豊富で、各章ごとに重要な点が「Key Point」としてまとめられており、理解を

深める工夫がこらされている。厚生労働省からはすでに DPC についての膨大な統計資料が公表されているが、一般の医療従事者にとってその中から重要な情報を抽出し理解することはむしろ困難となりつつある。その点、本書で著者は巻末の参考資料を含めて DPC の役割や活用法を理解するうえで特に重要な情報のエッセンスを抽出してとりまとめて解説しており、平易でありながら大変に内容の濃い冊子となっている。

近年の病院経営は、多くの職種の職員それぞれの関わりによって支えられている。本書では「DPC と医療職」の章を設けて、病院の医師をはじめ、診療所医師、看護師、薬剤師あるいは診療情報管理士など多くの職種のそれぞれにとって、DPC の持つ意味を述べている。医療職チームとしての病院の全職員が、それぞれにとって DPC とは何であるかを理解することができる。DPC 対象病院はもとより、準備病院として今後の参入を計画している多くの病院の職員

に一読を薦めたい。

本書を読むと DPC は単なる診療報酬の支払いシステムではなく、病院の経営構造や医療内容の開示、ひいては医療制度の構造を分析し透明性を高めるうえで必須ともいえるシステムであることがわかる。それを踏まえて、現在進められている医療制度改革についての方向性が示されている点も注目される。医療の質とコストについて検討する際のエビデンスは、DPC によってきわめて有効に明示されるという著者の主張は、本書で述べられた内容を踏まえると理解できる。世界に誇る国民皆保険制度が医療費の急激な増大によって揺らぐことが危惧されている。医療費について科学的根拠を持って討議、検討し、医療制度を設計するうえで、DPC から掌握される指標を活用することは欠くことのできない作業になると思われる。さまざまな、新しいしかも大きな役割が期待されている DPC について、本書が今後も長期にわたって定期的に版を重ね、病院経営と医療政策の指針であり続けることを期待したい。

●B5 頁 196 2007 年
定価 3,150 円
(本体 3,000 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-00429-9]
医学書院 刊